「大乗起信論」の紹介
～技術支援に必要な技術（四摂法（ししょうぼう））～

技術士（経営工学）　末浪憲一

仏教と言っても、大乗仏教、密教等いろいろな流れがあり、さまざまな教えが含まれているが、「大乗起信論は大乗仏教の綱要書として貴重な存在である。また、起信論は非常に体系的に構成されていますのでそれだけに多くの先生方による解説書がある。
中でも竹村牧男先生著「大乗起信論を読む」春秋社は私にとって、最適であった。
その場その場で、理解できるように多くの例を取り上げてわかりやすく解説されていた。そして多くの例の中に、技術士として支援するに当たり、当然知っておいた方がよいと思われる事項が多いことに気づいたので、許される限り紹介させていただきたいと考えている。

今回は四摂法（ししょうぼう）（巴）を取り上げることにした。
定義； 四摂法（ししょうぼう）とは、人々や集団をまとめる（摂）ための手段、方法のこと。 四摂事（ししょうじ）、四恩（しおん）とも謂う。
パーリ仏典長部の『三十二相経』『等誦経』などに説かれる。分かち合うこと。優しい言葉、気に入る言葉、心に訴える言葉。相手を利益する為になる行為。平等に接すること。

道元禅師の著された正法眼蔵の中に「菩提薩四摂法(ぼだいさったししょうぼう)」というものがあります。（曹洞宗岐阜県総務所）

正法眼蔵の内容は、そのほとんどが修行僧に向けられたものですが、この「菩提薩四摂法(ぼだいさったししょうぼう)」は、一般の信者さんのために書かれているものだと考えられております。
「菩提薩四摂法(ぼだいさったししょうぼう)」には観世音菩薩や地蔵菩薩などが、人々を様々な苦しみから救済するための行いである「布施・愛語・利行・同事」の四つが記されておりまして、私たち仏教徒が日常で行う修行であり、生き方でもあります。
その第一に記されている布施とは、幸せを一人占めせず、精神的にも物質的にも広くすべてに施しを与え、そして与えられていることを感謝して生きることです。
第二の愛語は、慈悲・慈愛の心をもって、愛情豊かで親切な言葉を語りかけることです。そうした優しく思いやりのある言葉の一言一言すべてが人々の心を和ませます。愛語は社会を正しい方向へ動かす大きな力となります。
第三の利行というものは見返りをもとめない行いであります。
自分がいい思いをする事ばかりを考えず、他の幸福のためにも良い行いをすることです。
第四の同事というのは、自分を抑え、相手と同じ心・境遇を自分自身に写して、相手と接することです。
もし、あなた自身に精神的に、物質的に余裕がある時に、苦しんでいる人と出会ったならこの「四摂法」の布施、愛語、利行、同時を思い出して、少しだけでも実践してみましょう。相手がそれで少しでも幸せに向かえたなら、あなた自身もまた、幸せに喜ぶ相手を見て幸せに思うことでしょう。そうして相手がいつか余裕のある人間となったなら、あなたの行いを思い出して、他の人にも実践していくかもしれまん。
あなたの小さな始まりが多くの人の幸せにつながるのかもしれません。

「大乗起信論」大乗起信論を読む　竹村牧男先生著　146 ページ
四攝（四攝法）は基本的な大乗の菩薩の修行で、布施・愛語・利行・同事の四つを指します。「布施」は、六波羅密の布施と同じで、お金や物以外にも教えや畏れのない心を施すことです。
「愛語」は優しい言葉遣いです。仏教は行為を身・語・意の三業・身体の行為・言葉の行為・心の行為の三方面からとらえます。特に言葉の行為には注意を払っており、道元の「正法眼蔵」にも「四攝法」の巻があり、「愛語廻天の力あり」とあります。これは「優しい言葉遣いには天をひっくり返すような

力がある」と解釈されています。
私の師匠である秋月龍珉先生は、「中国の皇帝である天子は一度言った言葉はもう取り消せないのだけれども、それをも覆す力があることだ」と解釈されていました。良寛にもこの「正法眼蔵」の「愛語」の巻を写した書が残っており、また言葉を慎むことに気をつけていました。

「利業」は利他行のことで、人のため世のために役立つことをしていくことです。

「同事」は、相手に応じた姿で現れて、相手に合わせつつ導いていくことです。いずれも、その行為によって親愛の心を起こさしめ仏道に導いていくのです。そういう四攝を起こします。

この四攝以外にもあらゆる修行をなしていく縁に依って、修行者が他者に対して大悲をおこし、それが心に薫習していきます。諸仏菩薩が身近な人になって導き大乗の修行をさせていくと、その人が慈悲の心を起こすようになります。そして、それが心に薫習してさらに修行を進めて行くことを言っています。ようするに衆生に修行を深めさせ、進めさせて、その経験の中で仏道の上の利益を手に入れさせるのです。その人その人に応じた適切なあり方で大乗の修行を実践させていくことが、差別縁なのです。

太古の昔、先祖がイカダに乗って日本にやってきた時には、すでに日本では先住者が部落を構成して住み着いていた。これら先住者部落の中に割り混むことを考えたとき。グル-プの(武)力と智力を最大限に発揮する必要があり、四摂法が考え出されたことは当然の結果であると考えられる。現在においても技術士のみならず最大限の支援活動を引き出すためには四摂法による考え方が必要である。

公益社団法人日本技術士会近畿本部登録　近畿PE技術相談室
https://kinki-pe-sodan.com/